

## 産婦人科領域の感染症に対する 7432-S の投与効果

千村哲朗・森崎伸之・松尾正城・後藤 正

山形大学医学部産婦人科教室\*

産婦人科領域感染症に対し 7432-S を投与し、その臨床効果を検討し以下の成績を得た。

1) 子宮内感染 5 例, 子宮付属器炎 2 例, 外陰膿瘍 1 例, 乳腺炎 1 例, 子宮内膜炎 + 付属器炎 2 例, 子宮内膜炎 + 付属器炎 + 骨盤腹膜炎 1 例の計 12 例に対し, 7432-S を 200 mg ~ 300 mg 投与した結果, 全例有効 (著効 5 例, 有効 7 例) であった。

2) 本剤の細菌学的効果では菌陰性化 4 例, 不明 5 例, 不変 2 例, 菌交代 1 例であった。

3) 自覚的副作用および本剤によると考えられた臨床検査値の異常は認めなかった。

Key words : 7432-S, 産婦人科, 感染症

産婦人科領域における経口抗生剤の適応は、経静脈投与を必要としない症例に対し、比較的軽症から中等症の重症度を有する内生殖器・外生殖器感染症が対象となる。

現在、セフェム系抗生物質の経口剤は、いわゆる第一世代と称されるcephalexin(CEX), cefaclor (CCL) などが使用されているが、抗菌力および抗菌スペクトルにおいて一段と優れた経口剤の開発が望まれていた。

7432-S は、新しく開発された経口用セフェム系抗生物質であり、腸内細菌群を含む広範囲のグラム陰性菌および一部のグラム陽性菌に対し強い抗菌力を有し、*Bacteroides fragilis* を除く各種細菌産生の  $\beta$ -lactamase に安定である<sup>1)</sup>。本剤のこうした細菌学的特性と体内動態は、産婦人科領域での経口投与を対象とした各種感染症に対し高い有用性が期待される。

今回、われわれは 7432-S の臨床効果を産婦人科領域で検討したので報告したい。

## I. 投与対象及び方法

昭和 61 年 8 月から 12 月までの間において、内生殖器感染症 10 例, 外生殖器感染症 1 例, その他 1 例の計 12 例を対象とした。

対象の年齢構成は、16~46 才で 10 代 (3 例) 20 代 (4 例), 30 代 (4 例), 40 代 (1 例) であり、疾患別分類では子宮内感染 5 例, 子宮付属器炎 2 例, 外陰膿瘍 1 例, 乳腺炎 1 例と、2 種類以上の疾患の合併は子宮内膜炎 + 付属器炎 2 例, さらに骨盤腹膜炎合併が 1 例である。

7432-S 投与に際しての、除外症例・対象疾患・薬剤投与方法・細菌検査・臨床的検討事項などは、7432-S 研究会の指定によった。また本剤の投与にあたっては、他

の抗生物質・鎮痛消炎剤などの併用は行っていない。

7432-S の投与量は、200 mg/day の 1 例を除き 300 mg/day の 3 ~ 14 日間 (総投与量 900 ~ 4200 mg) であった。

本剤投与の効果判定は、臨床効果及び細菌学的効果より著効・有効・無効の 3 段階法によった。

## II. 成績

7432-S 投与症例の概要を Table 1 に示す。7432-S 投与の臨床効果は、内生殖器感染 10 例で著効 3 例, 有効 7 例で有効率 10/10 (100%)、外生殖器感染は 1 例で著効であった。またその他乳腺炎の 1 例も著効であり、全症例での有効率は 12/12 (100%) であった。

疾患別の臨床効果では、子宮内感染 (有効 5/5 100%)、付属器炎 (有効 2/2 100%)、外陰膿瘍 (著効 1/1) であり、また子宮内感染 + 付属器炎の 2 例, および骨盤腹膜炎合併の 1 例ともに著効であった。なお前投与薬との関係では、CEX 前投与が 4 例, minocycline (MINO) 前投与が 1 例あり、これらすべての症例において 7432-S は有効であった。

細菌学的効果では、投与開始前に *Enterococcus faecalis* 3 株, *Staphylococcus epidermidis* 1 株, *Escherichia coli* 2 株などが検出されたが、菌検出不能が 3 例あり、結果的には菌陰性化 4 例, 不明 5 例, 不変 2 例, 菌交代 1 例であった。

次に 7432-S 投与が有効であった症例を紹介する。

Case No. 2. A.N. 29 才 診断: 右付属器炎

昭和 61 年 9 月 5 日, 子宮卵管造影 (HSG) を施行, 当夜より 38.4°C の発熱と強度の下腹部痛を訴え来院。

\*〒990-23 山形市飯田西 2-2-2

Table 1. Summary of therapeutic results of 7432 S treatment

No.	Name Age (yrs)	Diagnosis	Administration of 7432-S		Preceding chemotherapy	Isolated Organisms	Before After	Clinical effect	Side effect
			Daily dose × Duration (mg)	Total dose (mg)					
1	J.K. 26 y	Intrauterine infection	300 × 3	900	CEX	<i>S. epidermidis</i> (-)		Good	(-)
2	A.N. 29 y	Adnexitis	300 × 3	900	MINO	<i>E. coli</i> (-)		Good	(-)
3	T.A. 23 y	Endometritis	300 × 4	1200	CEX	<i>C. amalonaticus</i> <i>E. faecium</i> <i>A. calcoaceticus</i> (-)		Good	(-)
4	T.A. 24 y	Intrauterine infection	300 × 3	900	CEX	<i>E. coli</i> <i>E. coli</i>		Good	(-)
5	E.E. 19 y	Endometritis	300 × 3	900	CEX	(-) (-)		Good	(-)
6	M.M. 34 y	Adnexitis Endometritis	300 × 11	3100	-	Not detected Not detected		Excellent	(-)
7	N.M. 16 y	Vulva abscess	200 × 11	2100	-	Catalase positive GPR <i>Micrococcus sp.</i> <i>S. cohnii</i> (-)		Excellent	(-)
8	M.H. 46 y	Endometritis Adnexitis	300 × 14	4200	-	<i>E. faecalis</i> <i>E. faecalis</i>		Excellent	(-)
9	Y.K. 34 y	Adnexitis	300 × 7	2100	-	Not detected Not detected		Good	(-)
10	A.K. 38 y	Endometritis	300 × 4	1100	-	(-) (-)		Good	(-)
11	N.A. 30 y	Mastitis	300 × 10	3000	-	Not detected Not detected		Excellent	(-)
12	J.O. 19 y	Endometritis Adnexitis Pelveoperitonitis	300 × 8	2300	-	<i>E. faecalis</i> <i>Enterococcus sp.</i> <i>S. agalactiae</i>		Excellent	(-)

なお9月5日より minocycline (MINO) 経口投与してあったが、9月6日より7432-S 300 mg/day 投与開始する。3日間の投与にて臨床所見および検査所見の改善を認め、有効と判定された (Fig. 1)。

Case No. 3. T.A. 23才 診断: 子宮内膜炎

昭和61年9月4日, 人口中絶(妊娠3ヵ月)施行後,

9月7日より発熱・下腹部痛を訴え来院。なお前投与薬としてcephalexin (CEX) の経口投与を2日間行なったが無効であった。9月8日7432-S 300 mg/day を4日間投与し、臨床所見および検査所見の改善を認め、有効と判定された (Fig. 2)。

7432-S 投与時の臨床検査値および自覚的副作用は,

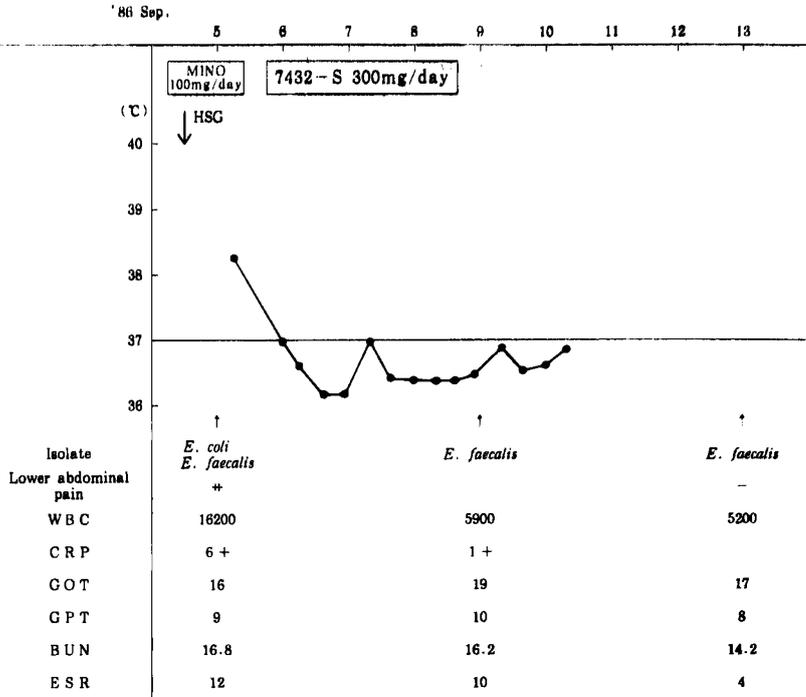


Fig. 1. Case No. 2, Adnexitis, A.N. 29 y.o., 54 kg.

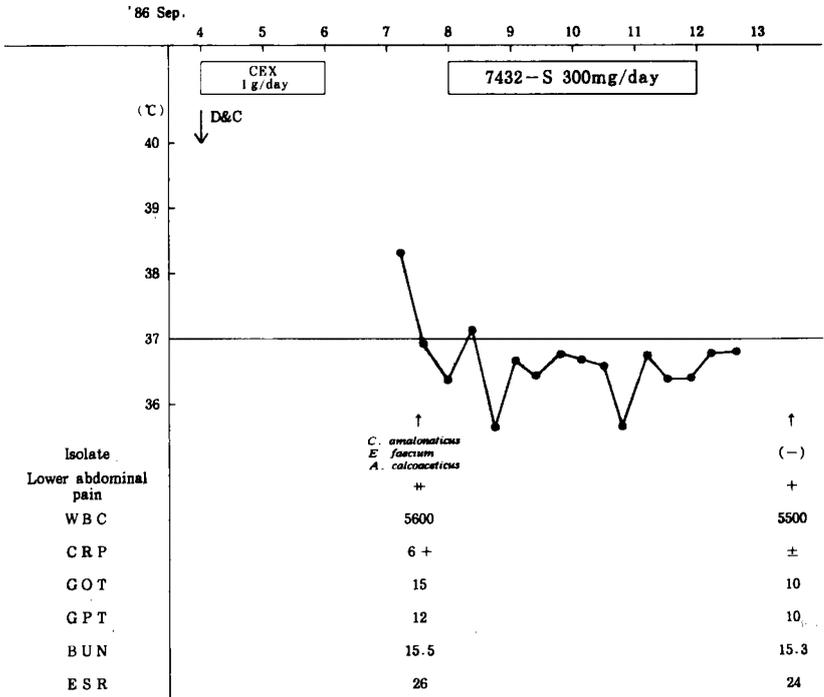


Fig. 2. Case No. 3, Endometritis, T.A. 23 y.o., 67 kg.

全例において認められなかった。

### Ⅲ. 考 察

産婦人科領域において経口抗生物質の投与対象は、軽～中等度の各種感染症と各種小手術（子宮内容掻爬術、人工中絶術、会陰切開縫合術）や、各種検査（子宮卵管造影、子宮内膜組織検査など）の感染予防の目的に投与されているのが現状である。

また産婦人科領域での感染症における好発菌は、グラム陰性桿菌や嫌気性菌の出現率が高く、こうした菌種に対する抗菌スペクトルを有し、かつ性器組織移行の良好な抗生剤の選択が要求されよう。

近年、新経口セフェム剤の開発と臨床導入が認められるが<sup>1) 2)</sup> こうした中で ceftibuten (7432-S) は FK 482, BMY-28100 などとともに注目される経口剤の一つといえる。7432-S は、広範囲なグラム陰性菌およびグラム陽性菌に対し抗菌スペクトルを有し、その抗菌力は *E. coli*, *Klebsiella*, *Proteus* 群, *Haemophilus influenzae* に対し強力に *Enterobacter*, *Citrobacter*, *Serratia*, *Streptococcus pyogenes* にも強く、殺菌的作用を示すという。また本剤の経口投与により、高い血中濃度と尿中回収率 (70～80%) が得られ、1回 100 mg, 1日 2回 14日間連続投与でも安全性の高いことが確認されている<sup>3)</sup>。

産婦人科領域での 7432-S に対する成績<sup>3)</sup> では、147例に投与で女性性器感染症への有効率は 116/119 (97.5%) と高く、分離菌別臨床効果では、単独感染では、*E. coli* 100%, 混合感染 88.2% を示し、全体として 92.9% を認めている。とくにグラム陰性菌消失率は 87.3% を示している。こうした結果は、本剤がグラム陰性菌に強

く、吸収性の良好である点<sup>2)</sup> を反映していると思われる。

今回のわれわれの成績は、全国研究会の上記成績の一部であるが、12例の内外性器感染症および乳腺炎で検討したが、著効 5例、有効 7例で有効率 100% の成績をえた。とくに前投与薬として CEX, MINO に無効であった 5例においても全例有効であった。すでにわれわれは、産婦人科領域の感染症・感染予防に対する cefteram pivoxil の投与効果を 200例について検討報告<sup>4)</sup> したが、7432-S がグラム陰性菌を主体とした産婦人科感染症の治療に適合した新経口セフェム剤であることが示唆されよう。

本剤の副作用に関しては、アレルギー症状、消化器症状を主としその出現率は 27/1271 (2.12%) と低く<sup>2)</sup>、今回の 12例の検討でも臨床検査値の異常も含めて全例に認められなかった。したがって、本剤の高い有用性と安全性の面からみて、産婦人科領域での経口投与の対象となる感染症の治療に対し 7432-S の臨床的評価が期待されるといえよう。

### 文 献

- 1) 齊藤 篤, 上田 泰: 新経口β-ラクタム剤。日本臨床 46 (特別号): 35～41, 1988
- 2) 副島林造: 最近の抗菌薬の開発の現状。Prog. Med. 9: 1315～1319, 1989
- 3) 第 35 回日本化学療法学会 西日本支部総会, 新薬シンポジウム, 7432-S。鹿児島, 1987
- 4) 千村哲朗: 産婦人科領域の感染症・感染予防に対する cefteram pivoxil (トミロン) の投与効果。診療と新薬 25: 1157～1162, 1988

## 7432-S IN OBSTETRICS AND GYNECOLOGICAL INFECTIONS

TETSURO CHIMURA, NOBUYUKI MORISAKI, MASAKI MATSUO  
and TADASHI GOTOH

Department of Obstetrics & Gynecology Yamagata University, School of Medicine  
2 - 2 - 2, Iidanishi, Yamagata 990-23, Japan

We investigated the clinical efficacy of 7432-S in obstetrics and gynecology by administering the drug in a daily dose of 200~300 mg to 12 patients.

1) Treatment proved effective in 5 cases of intrauterine infection, 2 of adnexitis, 1 of vulva abscess, 1 of mastitis, 2 of endometritis plus adnexitis and 1 of endometritis plus adnexitis plus pelveoperitonitis.

Results were very satisfactory in 5 and satisfactory in 7 cases.

2) Bacteriologically, the results were : eradicated in 4 cases, unknown in 5, unchanged in 2, and replaced in 1 case.

3) There were no subjective or objective side effects nor any abnormal laboratory value attributable to the drug.